



## ユネスコ創設50周年 国連国際寛容年

**ユネスコ50周年を迎えて**  
 広島ユネスコ協会会長 伊東亮三

阪神大震災で亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された数多くの人々にお見舞いを申しあげます。

震災で燃える神戸の街をテレビで見ながら、古い世代は、ちょうど50年前の戦争における空襲の悪夢を思い出されたことでしょう。被爆された広島の方々

は、この震災とは比べることもできない、原爆の悲惨さを思い出されたことでしょう。阪神大震災の惨状を見ながら、改めて、天災ではない人災である戦争というものの比類のない残酷さを想起された方は多いことと思います。

その地球レベルでの未曾有の惨禍をもたらした第二次世界大戦の反省に立って、平和を希求する機関として国連が生まれ、その中にユネスコがあります。

「戦争は人の心の中で生まれるのであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という祈りにも似た文言で始まる、かの「ユネスコ憲章」が採択されたのが1945年（昭和20年）11月16日、それから今年で丁度半世紀、50周年を迎えることになりました。

ユネスコでは、本年から1997年までを、ユネスコ50周年を記念する三カ年とすることにしました。それを受けて日本ユネスコ協会連盟では、50年前のユネスコ創設時の原点を見返し、今年からの民間ユネスコ活動の重点方向として次の二つを掲げました。

一、国際的な識字教育への協力を  
 二、世界人類共通の普遍的財産を尊重しようとする「世界遺産条約」関連活動

さらに、ユネスコ創設50周年の今年に「国際寛容年」です。戦争は他国、他民族に対する無理解、不寛容から引き起こされると、ユネスコ憲章前文に述べられています。今秋パリのユネスコ本部に、ヒロシマの被爆石で作られる「瞑想の空間」は、民族や文化の対立を

超えた寛容の精神を生み出す瞑想の場となることでしょう。被爆50周年を迎える広島のユネスコ協会としては、原爆ドーム世界遺産化の運動に徒来にも

増して強力に取り組むとともに、ユネスコ50周年記念の行事に積極的に協力していきたい。

（鹿児島大学教授 広島大学名誉教授）  
 藤原 隆範

### 第17回高校生のつどい

去る12月18日、広島大附属高校で「第17回広島ユネスコ高校生をつどい」が開催されました。「つどい」は、高校生に国際理解の精神を育成し、自主的活動のあり方を考えさせるために毎年行われているもので、17回を迎えて今年には19名の高校生が参加しました。

9時開会。まず、広島ユネスコ協会伊東亮三会長よりご挨拶をいただき、続いて、昨年夏に行われた「広島ユネスコ学生海外研修」の報告会にうつりまし

た。海外研修は昨年で4回目を迎え、8月22日から31日まで、オーストラリアとニュージーランドを訪問しました。これには広島経済大学生、広島第一女子商業高校生徒、広島大学附属高校生徒各2名が参加しました

が、「つどい」の中で、各自の研究テーマとそれについての報告を行いました。また、報告に先立ち、一行がたどったコースを紹介したビデオの上映も行われました。

研修報告はスピーチと展示によってなされましたが、それぞれのテーマは、「シドニーの開拓当時の歴史」、ニュージーランドの「マオリ文化」「農牧業」「鳥類」、オーストラリアの「動物」「建造物」についてであり、真剣な中にも、和気あいあいの報告会となりました。

昼食後、「ユネスコ・コアアクション街頭募金」の意義と参加の心構えについて、広島ユネスコ協会加藤副会長よりお話をいただきました。「コアアクション」とは、ユネスコが途上国の教育振興と社会開発のために実施している運動で、毎年「高校生のつどい」ではこの趣旨に賛同し、街頭募金を行っています。募金の重点テーマは昨年に引き続き「2000年までにすべての人びとに文字を」とし、世界寺子屋運動事業の支援のために行うこととしました。

当日は、寒風吹きすさぶなか、そごうデパート前で募金活動を行い、多くの方が快く募金に応じてくださいました。約2時間で57,815円の募金をいただき、日本ユネスコ協会連盟に送りました。

今後とも国際交流の中心となる人材の育成をはかるべく、また、多くの学校が「つどい」に参加していただけるよう、尽力してまいります。

（広島ユネスコ協会理事・広島大学附属高校教諭）

# アジア大会前・後アンケート結果 育った「広島心」

沖本 博

42のアジア諸国・地域から約七三〇〇人の選手・役員等の参加を得て、昨年10月に広島アジア競技大会が開催されました。この国際的ビッグ・イベントが市民の国際感覚にどのような影響をもたらすものかについて、広島ユネスコ協会では、アジア競技大会の開催前と後に市民アンケートを実施して研究をすすめてきました。

このたび、この後調査の結果をとりまとめましたので、前調査の結果と比較しながら概要をご報告します。

## 調査結果の概要

Q1 アジア競技大会が楽しかったですか(楽しかったですか)

前調査ではアジア競技大会への期待度を、後調査で同大会への満足度について訪ねました。前調査では、「楽しみに思う」が83%、「楽しみには思わない」が5%、「わからない」が12%でした。

後調査では、「楽しかった」が78%、「楽しくなかった」が7%、「わからない」が15%でした。

「楽しかった(満足度)」が「楽しみに思う(期待度)」より5ポイント低くなっていますが、

全体には、ほぼ期待度どおりであったと解してよいと思われる。

しかし、これをもう少し詳しく見てみると、前調査で「楽しみに思う」ものの割合は、男性89%に対し女性79%であったものが、後調査では「楽しかった」と答えた者の割合が、男性77%、女性78%とその差がなくなっています。

年齢層別では、男性の20歳未満と20～30歳代で、期待度より満足度が低くなる(つまり、期待したほどではなかったと思

う)傾向を示し、一方、女性の20歳未満と20～30歳代では、逆に、期待度よりも満足度が高くなる(つまり、思いのほか良かったと思う)傾向を示しているのが注目されます。

Q2 アジア競技大会を広島で開催することは良いことか(良かったか)

開催の是非を尋ねました。前調査では、「非常に良いことだ」46%と「まあ良いことだ」37%と両方で83%が開催を支持しました。

後調査では、「非常に良いことだった」47%と「まあ良いことだった」43%と両方で90%と、前調査より評価が7ポイント増加しました。

Q3 アジア競技大会は広島にとってどんな意義がありますか(ありましたか)

開催の意義について尋ねました。(複数回答)前調査と後調査の選択肢の回答割合を表1に示しました。

この表から、アジア競技大会によって、「立派な競技施設やホテル、道路などができた」のは予想どおりの大きな成果であった。また、ほぼ期待どおりに「広島のことをアジアの人々に知ってもらえる」ことができ

＜表1＞ アジア競技大会開催の意義

選択肢 (3つ以内の複数回答)	前調査	後調査
立派な競技施設やホテル、道路などができる	54%	58%
広島のことをアジアの人々に知ってもらえる	48%	46%
アジアの国々や地域のことを知ることができる	38%	53%
広島が活性化(いきいき)する	32%	16%
いろいろなスポーツが盛んになる	30%	21%
アジアの人々と交流ができる	29%	34%
自分の国や広島のことを見直すきっかけになる	21%	19%
ゴミなどがなくなり広島が美しくなる	9%	9%
意義はないと思う	3%	1%

たが、それ以上に「アジアの国々や地域のことを知ることができる」のは収穫であった。「アジアの人々との交流」もますますで良かったが、「自分の国や広島のことを見直すきっかけ」までは至らなかった。アジア大会をきっかけに、今後、「いろいろなことになるであろうか。

〈表2〉 関心を持っている国または地域

国・地域 (自由記述)	前調査	後調査
中国	33%	31%
タイ	11%	8%
インド	10%	7%
韓国	9%	10%
シンガポール	7%	7%
北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)	6%	5%
インドネシア	6%	7%
マレーシア	6%	4%
モンゴル	4%	7%
台湾	4%	5%

Q6 関心を持っている国または地域は  
大会で活躍したり、印象に残ったり、話題になったりしたことによって国や地域への関心がどの程度影響されるものかを見ようとしまし

Q7 アジアの国や地域のこと  
透をみせていることを窺わせるものとなっています。

「ことば」29% (28%)、「社会のしくみ」28% (23%)とほとんど変化が見られませんでした。なお、「ことば」については、男女とも若い世代において学習意欲が高くなる傾向に変化はあ

「原爆のことや平和を願う気持ち」はかなり伝えることができたと思う。また、「原爆による廃墟の中から復興した「ひろしま」の「経済や社会の発展している様子」も伝えることができた。しかし、「水と緑の美しい街ひろしま」のたたずまいや、そこに住んでいる私たちの「日常

Q4 アジア競技大会を見に行きますか(見に行きましたか)  
前調査では、「たびたび見に行きたい」15%、「一度くらい見に行きたい」61%、合計で76%が「見に行きたい」と答えました。  
後調査は、「たびたび見に行きたい」23%、「一度見に行きたい」40%、合計で63%が「見に行きたい」と答えています。  
一度くらいは競技場に足を運びたいと思っていて実際には行けなかった人も多くいましたが、この分、テレビなどでの観戦が14ポイント増えています。  
行った人の内訳では、男女とも40〜50歳代が70〜80%と最も高くなっており、また、女性の20〜30歳代が43%と最も低くな

Q5 アジアの国や地域に関心がありますか  
前調査・後調査とも同じ設問です。アジアへの関心の変化を見ようとしたものです。( )  
内は後調査のものです。  
「大いに関心がある」31% (32%)、「少し関心がある」44% (47%)、「どちらとも言えない」15% (11%)、「あまり関心がない」7% (8%)、「全く関心がない」1% (1%)、「わからない」2% (1%)となっており、関心があると答えた者は、75%から79%と高率ながら微増にとどまっています。この理由として、前調査の時期がアジア競技大会前約百日であり、すでに市民のアジアへの関心が高まっ

た。前調査・後調査とも同じ設問です。(複数自由記述)  
記述された上位10の国または地域を表2にまとめました。  
国または地域の順位に多少の変動はありますが、顔ぶれは変わりませんでした。上記の仮説は成り立たなかったようです。それよりも、日本を除く45の国または地域のうち、前調査では43が、後調査では44が記述され、関心のある国または地域はほぼ全てに広がっており、公民館の「一館一國運動」がかなりの浸透をみせていることを窺わせるものとなっています。

Q8 アジアの人々に「ひろしま」はどんなことを伝えることができると思いますか(伝えることができたと思いますか)  
表3に調査結果をとりまとめました。  
「原爆のことや平和を願う気持ち」はかなり伝えることができたと思う。また、「原爆による廃墟の中から復興した「ひろしま」の「経済や社会の発展している様子」も伝えることができた。

「原爆のことや平和を願う気持ち」はかなり伝えることができたと思う。また、「原爆による廃墟の中から復興した「ひろしま」の「経済や社会の発展している様子」も伝えることができた。しかし、「水と緑の美しい街ひろしま」のたたずまいや、そこに住んでいる私たちの「日常

## 「一館一國運動」花開く

広島市中央公民館館長 三 上 勝 義

アジア競技大会は、成功裡に終わりました。広島市の63公民館・コミュニティセンターでは、平成4年度から「一館一國・地域の応援事業」に取り組み、大会期間中、市民の皆様の手で大きく花開きました。  
この事業は、各館ごとに一つの国・地域を担当して学習するというユニークな取り組みを行い、担当する国・地域の選手に手作りの土産を渡したり、大会期間中には、相手の国・地域の旗を振ったり、民族衣裳を着ての親身になった応援や、館へ選手団を迎えての心温まる交流等が実現したことで、あらゆる方面から高い評価を得ました。  
また、この事業を契機に、実際に相手の国・地域を訪問し、交流を図ったり理解を深められた方々もありました。  
今後とも、アジアの理解講座や留学生や在広外国人の方との交流会を実施するなどして、アジア諸国の理解を深めていく予定です。  
この事業をとおして、地域の各種団体をはじめ多くの方々に多大なるご協力をいただくなかで、アジアに対する関心を高めていただくと共に、これまで公民館等の活動に参加されていなかった方にも広く参加していただくこともできたことは、大きな喜びです。

<表3> アジアの人々に「ひろしま」はどんなことを伝えることができるか

選択肢（3つ以内の複数回答）	前調査	後調査
原爆のことや平和を願う気持ち	76%	66%
私たちの日常生活・暮らしぶりなど	40%	28%
水と緑の美しい街ひろしま	37%	29%
経済や社会の発展している様子	25%	40%
私たちのものの考え方	17%	9%
お茶・お花・折り鶴・民謡などの伝統文化	15%	21%
私たちのまごころ	14%	30%
その他	1%	2%

※ ※ ※

の生活・暮らしぶり」、「ものの考え方」などは、アジアの人々に、私たちが考えていた程度に、十分に伝えることができなかったが、「お茶・お花などの伝統文化」に加えて、なによりも「私たちのまごころ」をもってお迎えができた。

こんなことが浮かびあがってくるのではないだろうか。

### 「ひろしま」

### のイメージ

アジア競技大会は、市民に有形無形の多くの財産を残してくれたと思います。国際感覚という無形の財産に注目すれば、市民一人ひとりの学習活動やボランティア活動を通じて、また日頃の何気ない人との交流を通じて市民のアジアへの関心が確実に高まりました。

た。このアジアへの関心は、「世界の中のひろしま」「アジアの中のひろしま」を、日常生活レベルにおいて実現しようとするとき、大きな財産になると考えます。このためにも、私たちは、たえず、アジアに学び続けるとともに、アジアに貢献できる「ひろしま」の役割を考え続けなければならないと思います。



## 友好の絆、更に深まる 広島代表、昨秋訪中

### 訪中報告①

### 教育現場さまざま

### 北川 建次

どんな国際交流も最後は人の出会い・ふれあいに帰すると思われまふ。アジア競技大会で広島を訪れたアジアの人達が、いつまでも広島のことを思い、また広島の人達がアジアの人達のことを思う。こうした人の輪が、今後とも更に広がり、アジア各国・地域に広島のことをいつも親しく思ってくれるそんな広島の人達をつくらなければならないと思います。

公民館の「二館一國・地域の応援事業」は、市民参加を得て、大きな成果を生み出しました。この事業が継続して、「ア

アジア各国・地域に広島のことをいつも親しく思ってくれるそんな広島の人達をつくらなければならないと思います。

翌17日天安門広場、人民大会堂、故宮博物館を見学の後、15時北京発空路瀋陽へ、16時着、直ちに歓迎夕食会あり、遼寧省教育委員会盧鴻徳主任他の歓迎を受ける。

翌18日は遼寧省教育委員会で盧主任、張建華外事処長らより、教育事情、識字教育、職業教育、とくに農業教育に力を入れているとの説明がある。そのあと成人教育センター、成人教育中心校等を訪問し、前述の教育とくに高校、短大レベルの職業教育の実態について見学。

午後は市内散策。新しい建物が次々と建てられていて（十数年前に訪問。今回再訪）、瀋陽市発展の様相もよく伺える。

少し寒い。市内の旧満州国時代の建物を眺めながら南湖賓館に投宿。夜は吉林省教育委員会陳主任らにより歓迎夕食会。

20日午前旧満州国皇居見学。「ラストエンペラー」の一コマも思い出されて感慨も一しお。

午後、吉林省瀋江・白山地区からわざわざ来られた干、王両氏から農村における識字教育の実態について話を聞く。具体的に農業教育とからめて識字教育をすすめている話。老若男女、多様な年齢構成の中での識字教育の難しさを痛感した。

そのあと東北師範大学を訪問。新しいアメリカ帰りの副学長の説明をうけ、中国の大学もかなり変化していることを知る。

（広島ユネスコ協会理事・広島市立中央図書館管理課長）

午後、空路北京へ移動。

21日午前中、中国青少年発展基金会上に李氏を訪問。

日本、ユネスコ等の援助で、僻地に小学校（希望校）を造っている様子を伺う。日本のボランティアもかなり活躍のようである。午後にはユネスコ北京事務所にて武井所長を訪問してお話を伺う。

夜は北京ユネスコ協会主催の歓迎夕食会。広島にも来られたことのある陶西平北京ユネスコ協会長（北京市教育局長として第一回の訪日団長）をはじめ蘭・白氏らと歓をつくす。

24日午前、日本語教育で有名な月壇中学校を見学。中学3年の日本語を使つての授業を見る。北京ではかなりの進学校とすること。将来は日中かけ橋の要人がでることだろう。

夕方こちらから答礼の宴会。陶氏も出席される。

25日朝、北京発。午後成田着。

今回は華北、東北地区の初・中教育の実態について見学。ユネスコの中に教育発展への貢献が大きいことも知る。加えて北京と広島のユネスコの交流の意義の深いことを改めて自覚した次第である。

日中の友好と広島・北京ユネスコ姉妹協定の永続を希求して

やまない。

（広島ユネスコ協会常任理事・広島大学学校教育学部教授）

## 訪中報告②

### 無形の土産は……

#### 松岡盛人

中国女性の服装のカラフルさ、カラオケの流行、若者のデート等々、自由化の波は早く確実に進んでいるようです。

北京市にある日本語専門学校、月壇中学校を訪問し、中学三年の授業風景を見学させていただいた時の生徒たちのまなざしは、「明日の中国を背負うぞ」と語りかけるように輝いていたのが印象的でした。

日本への関心の度合いは、吉林省の大学生の第二外国語が日本語であることから伺えます。その理由として、①日本の経済発展のすばらしさ、②隣国、③同じ漢字文化であること、の三点を挙げていました。

北京市内で人力車や馬車の往來を見かける一方、ポケベルや自動車電話が相当普及している光景には、時代錯誤の感がありました。殊に、中国でのポケベルのユーザーは今や900万台を超えるほどといわれ、昨年日

本を抜いて米国に次ぎ世界第二位に伸び上がってきています。

情報通信メディアは中国のビジネス社会を中心に今後一層普及・浸透し、経済発展や地域の情報化に威力を発揮することでしょう。

今回の訪中の無形のお土産は、ユネスコ北京事務所の武井代表からのショッキングな言葉です。「日本に留学して帰国した大半の学生は日本のことをあまり良しと思っていない。そこを皆さんで何とかしてほしい」ということです。その一つの背景としては、いろんな規制や物価高等による生活環境の厳しさがあるといわれています。

もう一つの側面は、私ども日本人の国際性の欠如にあると思います。それは、外国人の対応に不慣れた国民性そのものが障害になっていのではないかと思うのです。確かに、海外旅行者は年々増えていますが、バック旅行では、国境を越えた人間関係づくりはあまり期待できません。熱い思いを寄せて日本に留学してきている人たちと、草の根レベルの国際交流を通じて将来的な人間関係を築くことが彼らにとって、また私たち日本人にとって本当に大切なことではないかと思えます。そのことが私の今後の実践課題なので

す。

（広島ユネスコ協会理事・広島郵政局企画課長補佐）

## 訪中報告③

### ホスピタリティ

#### 国田 繁

今回は丁度、広島でのアジア競技大会の様子がテレビで放映され、話の中ではいつも話題になりました。また、中国にとつては、この年の11月15日は中国ユネスコ協会連盟の結成総会が開催される記念すべきときでもありました。

4年前の北京アジア競技大会では、歓迎するために飾られた旗や花で一杯で、市街地も随分整備されていましたが、今もなお、道路工事や大きなビルの建設が着々とすすめられています。しかし、朝夕は通勤者のラッシュが始まりますが、主要道路には信号機はほとんどなく、また、夜は街灯は消され、車や人々の往來は危険さを感じました。

今回の訪問で、北京での出迎えからずっと案内してくれた北京市外事処の司占樹氏（通訳）また、訪問先の教育委員会の皆さんや案内していたいただいた方々の温かなもてなしの心に感謝の

気持ちで一杯です。

中国はここ10年来、経済発展はめざましく、成人教育や職業教育も随分進んできているようでした。しかしながら、内陸はまだ遅れている様子で、青少年発展基金やユネスコ北京事務所では、子どもへの教育に対する援助、とくに、希望小学校の建設には力を入れていました。

東北地方では、工業都市で交通経済の中心である瀋陽市の教育委員会を訪問し、教育事情についてのお話や、また、吉林省では少数民族の集落（韓族）での識字活動に取り組んでいる様子聞くことができました。

学校においては、重点校を指定し、専門教育に力を入れていました。現在、体育重点校が一〇校あり、アジア競技大会での強さを誇っていました。月壇中学校でも日本との交流を積極的に進め、日本語教育には大変力をいれていました。

10日間の日程でしたが、北京をはじめとして、今回は初めて東北地方の、昔ながらの街並みを残す旧満州国議事堂や偽故宮、北陵公園などを見学したり、交流できたことは大変幸運でした。今後も中国との交流をもっと大切にしていきたい。

（広島ユネスコ協会理事・広島市現代美術館普及係長）

# 国際交流サロン 新外国事情に耳を傾ける

内外のゲストスピーカーを招いて最新の「外国事情」を聴くユネスコ国際交流サロン（年に7〜8回開催）は、順調に回を重ねてきました。

☆10月22日「台湾の中の日本」

広島大学大学院 鄭智恵さん（留学生）

反日の祖父と親日の父の家庭に育った智恵さんの中に映る日本文化の影響と台湾の活動的な現代社会の動きを解説。

☆11月19日「アジア競技大会の遺したもの」

大会組織委参事 南文一さん  
史上初の地方都市での開催ならではの、市民あげての国際交流の実現はすばらしかった。

その代表的なものが60館の公民館がとろくんだ「一館一運動」であった。

☆1月28日「広島・北京友好姉妹協定にもとづく訪中報告」

北川常任理事（団長）、松岡・国田両理事

通算4回目の訪中団は北京を始め中国東北地区の瀋陽、長春を訪問。主として識字教育、職業教育の実態を視察するとともに各地ユネスコ協会

との友好を深めた。

☆2月18日「私のアイデンティティー―日系ブラジル人の視点から」

市田・イリリア・えりかさん（留学生）

94年4月末日、広島大学教育学部入学。12月、留学生日本語スピーチコンテスト優秀賞。

今年3月帰国予定。

日本人の両親の家庭に生まれるながら、ブラジル社会に生きていくために家庭内では日本語を使わないで育てられたが、「私はやはりブラジル人と日本人の両方の心をもった存在なのです」

## 中国ブロック

### 研究会報告

藤森 巖

「ユネスコの理念は人類最高の知恵です」と、中村秀子中国ブロック会長の挨拶が始まった1994年度中国ブロック・ユネスコ活動研究会は、1月28日、松江市で開催されました。

研究会に先立つブロック協議会で次の三点が決定されました。

- 一、今回は、広島県で開催。
- 二、今後は広島、鳥取、岡山、山口、鳥根県の順で開催する。
- 三、広島で、ブロック規約の原案を作成し、提案する。

研究会は、ブロック会長に次いで鳥根県ユ協会長の挨拶があり、「地球温暖化が進み、日本でインデカ米を作るように？」と、環境問題にまで話が発展しました。

続いて、岡本国内委員より「活動の最近の動向について」の報告と、吉岡日ユ協連事務局長より「ユネスコ憲章採択五十周年行事計画」と、四つの活動重点化について報告がなされました。

各県報告会では、鳥取ユ協が「寄付をうけた募金をバン格拉デシユに贈った活動」、岡山ユ協「発足二年目の活動」、光ユ協は「年間活動」、鳥根ユ協は「アソール遺跡救済展開催の経緯」、広島ユ協は「県内ユ協の実態と広島ユ協の活動」と、それぞれ熱心な取り組みについての報告がなされました。

特別講演では「私と世界の文化遺産」と題して並河萬里氏（写真家）より、文化遺産保護について「専門家にまかせず、みんなの手で保護を」と、切々と訴えられました。

参会者五十余名の多くは、聞く一方の研究会であったが、レ

セプションでは、会話が弾み笑顔の交流がなされ、開催県の努力に感謝しつつ散会しました。（広島ユネスコ協会常任理事）

## アジアを結ぶ

### 若者フォーラム

岡平裕次

去る1月15日、広島市青少年センターを会場に「人・アジアをつなごう、語ろう、飛びだそう」をテーマに、国際交流・協力等の促進をめざした若者のフォーラムが開催（広ユ協共催）されました。

参加者は、アジア大会のボランティアとした活動した人、地域を挙げて各国の応援をした人、何らかの形でアジアの人々と関わった若者等で、モンゴルのプロ歌手オユンナと広島市長とのトークショーや国際交流・協力活動の体験者によるシンポジウムなどが行われました。

会場は50人の若者スタッフと五一〇人の参加者によって活気な意見交換が行われ、熱気に包まれました。

同日、モンゴルを支援するためのチャリティー募金は、総額五六、四〇二円になり、モンゴルで不足している辞書を贈ることになりました。また、海外派遣への参加者募

集は、24名の応募があり、後日10名の団員が決定しました。（広島ユネスコ協会理事・広島市青少年センター主幹）

## ユースセミナー

### に青年部員参加

2月25、26日、東京、国立オリンピック記念青少年総合センターで開かれたユネスコ・ユースセミナー（日ユ協連主催）に広ユ協から名原尚美青年部員が参加しました。

1日目の午前中は講義

「ユネスコ活動について」

鈴木佑司・法政大学教授

「世界遺産について」

工藤父母道・プロジェクト

ト・ワールドヘリテッジ

「識字について」

大沢敏郎・横浜寿識字学校

午後は活動事例発表・グループ・ディスカッション

夜はロールプレイ「リーダーの心得」

2日目の午前中は車座トーク

（情報交換と将来の展望）

出席した名原さんの弁。

「セミナーでの成果をワンステップとして意欲的に活動に活かしたい。広島ユネスコ協会がとろくんでいる原爆ドーム世界遺産化の実現に協力したい。」